



みかん狩り



山登り



インターナショナルキャンプ



クッキング教室



滝あそび

豆知識

「九州ろうきんNPO助成」を活用!

田んぼでの稲づくり活動に対して27万円の助成があり、農具を購入。収穫後のもちつき大会開催費用にも役立てられる予定だ。



暮らしイキイキ
NPO

〔福岡県・福岡市〕
〔えすぺらんざ〕

不登校、中退、ひきこもりなど、自分の居場所を見つけれない子どもが増えている。『箱崎自由学舎 ESPERANZA』は、そんな子どもたちに生きる希望と夢を与えるアットホームなフリースクールである。
※ESPERANZAとはスペイン語で、「夢、希望」のこと。

あったか先生の
自分さがし塾!

代表の小田哲也さんは元高等学校の教師。青年海外協力隊員として南米の少年院で3年間働いた経験から、子どもたちの力になりたいと箱崎自由学舎 ESPERANZA を設立。学校に行くことが難しい子どもたちの第二の学校として勉強、生き方の両面からサポートを行っている。

勉強は年齢に関係なく習熟度に合わせて丁寧な指導し、通信制高校通学者に対してはレポート作成などをサポート。またクッキング教室や各方面で活躍するゲストティーチャーとの交流、山登りやみかん狩り、キャンプ、ボーリングなどの野外活動、外国人を迎えた異文化体験などを定期的に開催している。「活動はなるべく子どもたちに任せて自主性を引き出すようにして

無料体験レッスン、学校見学、ボランティア、寄付すべて大歓迎!

●お問い合わせ・お申し込み

箱崎自由学舎 ESPERANZA (えすぺらんざ)
TEL (092) 643-8615
<http://www.esperanzahp.jp/>

正会員：入会金……5,000円
年会費一口……5,000円
賛助会員：入会金……なし
年会費一口……2,000円

「正直、学校の運営は大変なことでもたくさんあります。でも元気のなかつた子どもが笑ったり、話したりした時に『ああ良かった』と思うんです」。子どもたちの笑顔を少しでも増やしていくこと。それが先生たちの願いである。

田さん。先生たちが子どもたちのありのままを受け入れ、体当たりでぶつかっていく姿勢も ESPERANZA ならでは。教育者という枠を越え、一人の間として子どもと共に学び、遊び、笑い合う関係がここにはある。

「正直、学校の運営は大変なことでもたくさんあります。でも元気のなかつた子どもが笑ったり、話したりした時に『ああ良かった』と思うんです」。子どもたちの笑顔を少しでも増やしていくこと。それが先生たちの願いである。

います。いろんな経験を通して社会や人との付き合い方、生き方を学んでほしいですね」と小田さん。

団体データ

開校 / 2005年2月
対象年齢 / 中・高校生 (12~20才くらいまで)
運営スタッフ / 常勤4名、ボランティア4名
在籍生徒数 / 9名
活動内容 /
○不登校や中退などの教育相談
○通信制高校通学者への勉強・生活サポート
○キャンプやボランティアなどの体験学習
○語学教室、途上国へのスタディツアー開催
○パンやクラフトなどの手作り品製作や販売体験

教えて NPO

特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター
代表 古賀 桃子

この原稿を書いている間、連日、国会審議の中継がテレビやラジオで流されています。私は普段国会の論議を放送でじっくりと聞くことはほとんどなかったのですが、いざ聞いてみると、NPOにも深くかわりのあるテーマが随所に出てきます。例えば、少子化の中での育児支援や親・子の心のケア、若者が希望を持てる社会づくり、高齢者のケア、環境問題への企業・行政・市民が一体となった取り組みのあり方…実にさまざまありますが、それぞれについて、草の根では専門性を持ったNPOが多く活動しています。

ここ10年近くの間で、国や自治体の予算が、NPOにも大きく流れるようになりました。それは、NPOにとっては、地域の課題解決やサービスの担い手となる大きなチャンスにもなり、また時には自ら自立性を弱める要因にもなることもしばしばあるようです。私が活動するNPO支援分野の関係者の間でも、数年前より、委託事業や補助等、行政資金へのNPO側の期待の高まりを危惧する声がよく聞かれました。

行政コストを効率化させるための「行政改革」と、市民の創意工夫や専門性を行政運営に活かすための「協働」という2つの流れの中で、国をはじめ各地の自治体で、NPOにサービスや施設の管理・運営を任せる動きが加速しています。それを契機に大きくステップアップを図るNPOもあれば、一方では、団体の財源の大半を行政資金が占めるようになり、行政が予算を打ち切るとたちまち団体も困窮してしまうという事態に陥るところもあるようです。

NPOが行政資金を受け入れることが「義的に良くない」というわけではなく、それが地域の公共サービスの充実や課題解決のために効果的に活かされるのであれば、相応の意義はあると思います。が、行政資金の源となっているのは、他でもない税金であり、行政は、NPOに任せることがすなわち最善と位置づけるのではなく、NPOに任せることで、真に成果が得られるかどうかということに注視する必要があります。また一方、NPOも、市民の税金を預っていることの認識や、成果や透明性への確保への関心を払っていく必要があるでしょう。

この話題、賛否さまざまあるところですが、いずれにせよ、NPOも行政も、互いにいかなる成果をめざしていくか、もつとえば、いかなる地域をつくっていくかというビジョンを議論し共有していくことが大切ではないでしょうか。